

1) 【梅満町 個人 50代】*****

新久留米市中心市街地活性化基本計画案から、問題点をひらうと次の4点になる。

①中心市街地の商業地としての地位は急激に落ちてきている

<原因>

- ・福岡市天神地区や周辺市町での商業集積の高まり
- ・無店舗販売の拡がり
- ・平成15年の市内郊外部への大型商業施設の出店

②六ツ門商店街では、買い物客など通行量が減少、空き店舗は一段と増加した

<原因>

- ・平成17年11月にダイエー六ツ門店が閉鎖

これは、何度も書いてあり、かなり重要だということだろう。

③中心市街地の区域（JR久留米駅・西鉄久留米駅・西鉄花畑駅）は、従来から多くの人
が住み、地域の中心的な役割を果たすためのさまざまな働きを備えているにもかかわらず、
それらが十分に活かされていないために、近年、空き店舗が増えるなどの空洞化が進んで
いる

④運動施設、文化交流施設は中心市街地の周辺部に点在している

街なかでの交流施設の整備を行ってきたが、集積度はあまり高くない

③は原因の考察がない。

④は原因であって、問題点がない。

質問1

上記③の原因と④の問題点は何ですか。

質問2

質問1の回答を、意見締め切り前にいただけませんか。

それがないと、③、④対策の考察ができません。

質問3

上記①～③の問題を解決する方法として、

「都市型社会を代表する高齢者を主人公に、医・食・住が整った街で、豊かな時間とともに

に、豊かな能力を活かし、豊かな感性を満たす中心市街地の活性化を始めます」ということが書かれています。

老人が住むと、空き店舗がなくなり、買い物客の通行量が増えるわけですか。

客層が老人だとすると、店舗が違ってくるのではないのでしょうか。

質問4

JR 久留米駅東口と新世界地区につくるマンションは、老人に住みやすいようにどのような工夫がなされていますか。

また、老人が入居するとき補助金がでるのでしょうか。

質問5

老人にとって、都心部の魅力は、医療機関が近くにあることだと思います。

老人が住むマンションと、医療機関のつながりについての記述がない。

マンションの中に病院をつくるとか、ボタンひとつで呼び出せるとか、考慮されていますか。

質問6

上記②は、本文中3回ほど記載されています。かなり重要項目なのでしょう。

にもかかわらず、ダイエーにかわる、店舗の誘致に関して具体策がない。

大規模小売店舗立地法の特例区域の設定の提案として、「久留米市中心市街地における商業集積を高めるために大型店舗の出店手続きを簡素化し、出店を後押しします。」とあるだけである。

店舗の誘致を一社にしぼるのではなく、数社で共有する方法を考えたらどうでしょうか。

地下をタイホ、1階をベスト電器、2階をユニクロなど。

質問7

上記④、運動施設、文化交流施設は中心市街地の周辺部に点在しているとあるが、そこまでのアクセス方法の考慮がない。

歩道の整備や、標識の設置など。

意見8

JR 久留米駅東口と新世界地区に居住区を考えてあるが、高齢者にとっては、文化センター、中央公園、筑後川、ゆめタウンが近くにある朝妻、櫛原のあたりが環境的によいのでは。JR 久留米駅東口と新世界地区は、久留米医大、聖マリアが近くにあるが、朝妻、櫛原

からでもそう遠くない。

補助金をあててまでして、JR 久留米駅東口と新世界地区にマンションを建てる意味合いがあるのか。

ほんとうに高齢者のことを考えて、JR 久留米駅東口と新世界地区をよいと考えているのか。中心市街地の活性化のために無理をしていないか。

意見 9

JR 久留米駅東口のマンションから、水天宮の花火大会がよく見えることになるそうだが、この 3 5 階のマンションのために花火が見えなくなるところができる。

真正面に、3 5 階は、高すぎる。

マンションの住人のために多くの市民が犠牲になることにならないか。

意見 1 0

基本方針に、

「これ以上街を拡大させずに、中心市街地に銀行や事務所、店舗、病院、公共施設などの都市機能を集中させ、街の賑わいを維持させる「都市型社会」をつくっていく」とあるが、中心市街地に銀行や事務所、店舗、病院、公共施設などの都市機能を集中させる事業は、保健所設置事業だけですか。

市役所の窓口業務などを、旧ダイエービルに持ってきて、移動で空いた市役所のスペースで、JR 駅からの観光客を見越して、地場産の展示販売を行ってはどうだろうか。

意見 1 1

コンセプトに、「都市型社会を代表する高齢者を主人公に、医・食・住が整った街で、豊かな時間とともに、豊かな能力を活かし、豊かな感性を満たす中心市街地の活性化を始めます」とあるが、基本計画案には書いてないけど、たぶん定年退職した団塊の世代を街中に住まわそうという事だろう。

久留米は病院が多いので、余生を久留米ことは考えられます。

福岡市内で暮らすより、久留米がいいよと思わせる事業計画があるわけですが、高齢者の医療保険料が最近高くなっているが、安くしては、あるいは補助金をだしたらどうだろうか。

意見 1 0

① 3 5 階のマンション建設をすすめたかったら、場所は、花畑駅前が適当ではないか。

②JR 久留米駅東口はマンションより、公園が好ましい。

新幹線が開通することだし、久留米市の象徴となるものが駅前にほしい。

水と緑のまちにふさわしいのは、マンションでなく、田主丸の植木、城島の瓦など、地域の技術で造った公園である。

2) 【江戸屋敷 個人】 * * * * *

この度、久留米市中心市街地活性化基本計画案のダイジェスト版を熟読させていただきました。この計画案を受け、久留米市に居住する生活者及び事業者として、下記のとおり私見を述べさせていただきます。

はじめに

まず私がこの計画案に強い関心を示す動機を明らかに致します。

- ①中心市街地の大型店舗及び商店街がさらに衰退していることへの危惧
- ②水と緑の人間都市、食育都市、スローライフが輝く街、そんな久留米市に対する期待
- ③自分自身が団塊世代であり、その世代から見た未来社会への不安と希望

以上の三点が主たる動機です。この観点から、今何が問題なのか、その対策は何かを論じさせていただきます。

衰退する中心市街地商店街の原因について

中心市街地商店街が衰退する原因として、久留米市を取巻く郊外地に大型店舗が乱立したこと、さらに福岡市天神地区に魅力ある大型商業施設が誕生したことなどが掲げられます。しかしながらこうした環境変化はすでに商店街の空洞化が始まる以前から予測されたことであり、その対策が郊外店(ゆめタウン)の出店反対運動に集中し、『商店街衰退の根本的な原因追求』と『商店街の競争力を高める行動』にシフトしなかったことが衰退を加速させた原因だと考えます。衰退することは、ひとことで言えば『お客様に必要とされていない』ことだと言えます。商店街がお客様にとって必要なものにするにはどうしたらいいのか、そのために(1)今の商店街内部を総点検し、(2)なぜお客様が商店街から消えていったのか、(3)どうしたらお客様が商店街に来たくなるのか、そのことをトコトン詰めていけば『必要とされる商店街』の姿が見えてくるはずです。その実現のためには商店街を運営するすべての関係者が過去の実績やしがらみから開放され、革新的、創造的、連帯的な自助努力を必要とすることは言うまでもありません。

今の中心市街地商店街の問題点

まず最初の問題点は『だれのための商店街なのかが見えない』、次に『商店街で商売をす

るひとの顔が見えない』、最後に『商店街に愛情と品格がない』ことです。商店街が健全に機能するには、そこにお客様が必要とする商品、サービスが最低限存在しなければなりません。さらに商店街に「わざわざ来たくなる」ような人との温かいコミュニケーション、役に立つ情報、心地よい環境（雰囲気）などを必要とします。残念ながら近年及び現在の中心市街地商店街にはそれらの善玉要素が極めて乏しく、逆にマイナスとなる悪玉要素が増えている傾向があります。商品の品揃えは生活者を満足させるだけの新鮮度、専門度、選択度、先見度がなく、お客様を温かく迎える事業者側の挨拶や態度や施設もなく、商店街の顔とも言える玄関口はサラ金業者に占拠されている等、中心市街地商店街は『ほとめきの街』とは程遠い不毛地帯と言えます。

商店街から生活街への変身

世の中はすでに『モノ不足』の時代から『モノ余り』の時代。モノである商品を置いておけば売れる状況ではなくなりました。どんなに安くしてもすでにストックのある商品は、現在所有している商品以上の価値がなければ売れません。モノ不足時代は『モノ優先』の商売で成り立っていましたが、もの余り時代は『コト優先』の品揃えでなければ購買に結びつかなくなりました。コトとは『生活すること』であり、生活する上で役に立つこと、楽しいこと、新しいこと、創造的なことをお客様＝生活者に対して分かりやすく、センス良く提案しなければ、モノやサービスが売れない市場環境になりました。したがってこれからは『モノの商店街』から『コトの生活街』へシフトすることが商店街を活性化させる上での重要な戦略と言えます。

生活街づくりへのステップ

生活街を新たに形成する上で、久留米市が提唱している『水と緑の人間都市』、『食育都市』、『スローライフの輝く街』、この三つのキーワードを柱にすることは、地球温暖化や食問題や高齢者社会への対応として極めて重要な課題です。この三本柱を福岡市天神地区や郊外のショッピング街とは異なる、『久留米市中心街独自のバリュー創出』戦略として具現化する必要があります。さらに具現化したものが圧倒的な強みとなり、人々を感動させるものとならなければ効果が望めません。他と同じレベル、平均的なものでは「わざわざ」人は動かないものです。大型の商業施設がある郊外から中心市街地へ顧客を吸引することを目的とすればなお更のことです。以下、そのための具体的な施策を明らかにしたいと思います。

■ターゲットとそのプロフィール

(ターゲット)

生活街のターゲットを中核都市久留米の30万市民とする。重点ターゲットは久留米市街地の生活者であり、中でも生活者としてのリーダーである大人の女性は最重点です。まず

は地元の生活者に支持され誇りに思われる姿に生まれ変わることが、地元以外の顧客を取り込む上での前提条件となります。

(プロフィール)

市街地に居住する所帯は高齢者の一人ないし二人が急増している。さらに団塊世代の急激な増加が見込まれる。生活に求める価値は『経済性』、『利便性』、『娯楽性』は勿論のこと、『ほんもの性』、『安全性』、『精神性』を求める傾向が一段と強まっている。

■中心市街地生活街を構成するコト（久留米市の特長あるモノ&施設の一例）

①お酒落するコト

緋のニューモード商品、手作り工房お酒落商品、久留米市輩出者のデザイン商品'

②グルメするコト

食育レストラン、地元農産物バイキング、地元酒蔵レストラン、農山漁村グルメ市場

③学習体験するコト

工房体験塾、食育体験塾、子育て塾、ボランティア塾、商業高校生の販売体験塾

④遊ぶコト

昭和のシネマ館、歌声喫茶、ライブハウス、演芸場、脳活性ゲーム館（囲碁将棋麻雀）

⑤健康づくりするコト

スポーツジム、座禅ジム、介護予防体験ハウス、街の保健所（健康指導ハウス）

⑥交流するコト

街の公民館、食育広場、子育て広場、市民開放ギャラリー、NPOとNGOの事務局

⑦便利であるコト

街の市役所、街の図書館、街の託児所、街の配送センター、街の年金受給センター

⑧安全であるコト

街の交番、シニアライフ支援センター、人と街のバリアフリー（風紀の悪い店の排除）

⑨癒されるコト

街の森林浴広場、街の花見広場、街の温泉（足湯施設）、緑のオープンカフェ

⑩ECOするコト

地球にやさしいアイテムショップ、地産地消ショップ、リサイクルショップ、水と緑の学習体験館、自転車無料貸出し預け所、夏場の水撒き運動、店内外緑化推進、継続愛用する買物袋の提供

以上、①から⑩のコトを中心市街地に計画的に落とし込み、多様な価値ある商品、質のいいサービスの提供と、居心地のいい売場の環境づくりを同時に実現すれば、生活街としての楽しみや利便性や必要性が高まり、生活者である顧客の来街者数及び来街回数も増加します。数ある郊外店との差別化のためには、事業者と顧客との『顔の見える温かい人的コミュニケーション』＝『ほとめき』を実現するための質の高いサービスを、中心市街地を形成する全店レベルで実行されることが必須条件です。この実行なくして再生することは

できないと、関係する事業者全員が決意し行動することが何よりも重要だと考えます。

<参考>

売上=顧客数×購入単価×購入数量×来街回数である。

多くのお客様が、何度も繰り返し訪れてくれること、色んな商品やサービスを、数多く買ってくれることが売上を高める要素です⇒一番肝心なのはリピート顧客を増やすこと

■来街者を増やすための販促活動

<その1>

スローライフを実現するための街づくりのために、自転車及び歩行での来街者に対して中心市街地共通の『スローパスポート』を発行する。パスポート所有者にはショッピングや施設利用の割引特典を与える。

<その2>

中心市街地で買物をする顧客を増やし継続性を高めるために、中心市街地共通の『お買物ポイント付加』制度を導入する。買物の主役である女性は買物にポイントが付加されることに強い期待感があるし、郊外の大型店舗でもカード会員に対して様々な優待制度を導入している。中心市街地が地元生活者への密着度を高めるためには、地元の生活者の買物に対するポイント付加はもとより、生活情報サービスなどを盛り込んだ通信も必要である。

<その3>

久留米市が中心市街地の不動産を低額で使用出来るための基準価格設定や経済的支援を行う。また『広報くるめ』の誌面に中心市街地の『商業広告』を常時低額で掲載する枠どりをする。市の広告事業収入としての効果と事業者への経済的な支援にもなる。

<その4>

中心市街地が来街者に好感を持たれること。そのための街づくりが事業者によって自律的、継続的、安定的、上質的に実行されなければならない。心のこもった温かい挨拶、親切な道案内、お客様起点に立った品揃えとサービス、環境施設の安全と美化などすべてが『ALWAYS』に実行されなければならない。そのためには教育訓練が必要です。

<その5>

車以外での来街者、高齢者、女性による買物商品の運搬負担を軽減するために、各店舗の買物商品を共同で集合配達する低コストの物流システムを導入する。また車での来街者に対しては、市街地中心街に存在する全パーキングを無料ないし低額で共通利用できる制度を導入する。

<その6>

中心市街地の新生活街編成のためのブロックアウト実施。現在の東西に流れる長い商店街、南北に遮断される商業ブロックを解体し、小ブロックに編成し歩行者用の回遊道、休憩所、グリーンスポット、水場を設ける。これによってブロック単位のテーマのある街づくりが可能となり、来街者が歩き回る回遊性や自然の風通しも飛躍的に改善される。

久留米市役所高層ビルの新利用計画について

久留米市は中核都市づくりの推進、さらには九州新幹線開通により、今後飛躍的に国内外からの来街者が増えるものと期待され、そのための受け皿づくりの整備が必要と思われます。自然と交通アクセスに恵まれた環境、高度先端医療基地としての久留米大学医学部や有カゴム関連企業の存在、その他国内外の新たな有力企業の誘致や農業関連企業の参入などを考えた時、さらに文化度の高い街づくりを目指す時、どうしても必要不可欠な施設があります。ひとつは大小さまざまな会議ができるコンベンションホール、もうひとつがサービスとセキュリティの質が高いホテルの存在です。

久留米市役所の高層ビルは九州新幹線久留米駅からの好立地、筑後平野を一望できる最高の環境にあります。市役所に勤務する人々にとってはこの上ない恵まれた環境と言えますが、現在及び将来の久留米市の財政状況や先に述べた久留米市発展の可能性から判断すれば、この高層ビルの一部を外部の経済的効果のある施設に変換し、市役所内部をコンパクトサイズにすることが得策と考えます。一部の部署は現場に近い環境に移設し（例えば商工課を商店街の空き店舗へ、農業振興課を農村地帯へ）、現場から発想し改革する行政が地方の時代を築く上で必要な動きだと考えます。

以下、久留米市役所高層ビルの具体的な利用計画を述べさせていただきます。

<その1>

高層階の1層を久留米市所有のコンベンションホールとして利用する。医学部の学会、政財界の会合、国際会議など各種コンベンション開催の会場として使用することは勿論のこと、市民にも学校関係にも開放されたホールとして使用することができます。必要な環境と機能はリモデルすることで十分に装備することができます。ここでも会場費として収益を上げる効果があります。

<その2>

高層階の3層を国内の一流ホテルが使用する。コンベンションに参加する顧客の宿泊先としては勿論のこと、国内外の一流アーティスト、ビジネスや観光で訪れた人々の宿泊先として、さらには一流ホテルを利用した私的な会合、イベント、ブライダルなど質の高い顧客の利用が飛躍的に増え、中核都市久留米のイメージアップと経済的な相乗効果が大きい

期待できます。これまでの福岡市や熊本市への『通過点・久留米』が『滞在地・久留米』へとシフトすれば、久留米市の事業収益の確保のみならず、関係する地元事業者に対する収益源としても大いに期待することができます。

こうした政策転換を実施することで、『久留米市民の自慢できる資産』、『久留米市の稼ぐ資産』づくりとして、内外からその手腕が高く評価されるのではないのでしょうか。

新しい物差しづくり

久留米市は、『水と緑の人間都市』、『食育都市』、『スローライフが輝く街』の三つのコンセプトで都市づくり、街づくりを目指されています。いずれも今の時代が必要とする素晴らしいコンセプトだと思います。問題はこれらのコンセプトがどのようなカタチとなり、それが社会を、そして人々の暮らしをどのように変えていくのかにあると思います。

久留米市は広域合併により地域の裾野を東西南北に広げ、多様な人間、文化、伝統、産業、自然など有益な資産を手に入れることができました。そのことが三つのコンセプトを素晴らしいカタチにする源泉になると期待しています。

今回の基本計画案に数値の達成目標が示してありましたが、内容は歩行者通行量、乗降客数、開業店舗数、観光入込客数などでした。これらの数値も中心市街地の活性化を求めるとして大切な指標であるとは思いますが、このコンセプトで都市づくり、街づくりを目指すのであれば、その『コンセプト達成度をはかる別の物差し』も必要かと思えます。

以下それぞれの『物差し』の提案です。

水と緑の人間都市づくり

市街地の緑化率、街路樹植込み率、ビル屋上緑化率、久留米市『みどりの遺産』数（例えば、みどりの風が吹く路、桜が楽しめる場所、紅葉が楽しめる場所、森林浴が楽しめる場所、美味しい自然水が飲める場所、淡水魚が生息する川など）、市街地の露出河川率、淡水魚・野鳥・昆虫の生息種類数など

食育都市づくり

給食食材の地元率、地元農産物販売店舗数、地元農産物使用の飲食店舗数、農業体験のできる施設数、食育実践カリキュラム数、食育指導者登録数、食育関連イベント数、市民一人当たりの生ごみ廃棄量、野菜・雑穀ソムリエ者数など

スローライフづくり

歩行者専用道整備率、サイクリング専用道整備率、市街地無料休憩所整備率・市街地古民家登録数、癒しのスポット数、スローライフ宣言店舗数、市街地への自転車乗入率など

さいごに

以上、久留米市の中心市街地活性化基本計画案に対して、一部関連する事項を含め私見を述べさせていただきました。今回の市民の皆さんの様々な意見が有効的に採用され、久留米市が名実ともに中核都市にふさわしい、活力のある心地よい暮らしができる街に進化し続けることを、未来を託す若者や子供世代に明るい希望が生まれることを、団塊世代のひとりとして願わずにはおれません。

3) 【太郎原町 個人 50代】*****

今回の新基本計画案の基本的な考え方である、これまでの商業中心主義から中心市街地に多様な都市機能の集積を目指すことは、これからの高齢化社会や人口減少社会に向けての取り組みとして大変すばらしいことだと思います。

新基本計画案の基本コンセプトや基本方針が目指す「社会資本としての中心市街地を活用したコンパクトで賑わいのあるまちづくりの推進」というテーマと実際に行われる具体的な事業との間に実効性があるのか疑問があります。

空き店舗の解消や歩行者の増加、移住の場の確保はわかるのですが、その前に高齢者等の住民が中心市街地に訪れたいくなるような魅力のある何か、いわゆる目玉商品というものが必要ではないかと考えられます。来街者を生活者として据えるのか、消費者として据えるのか、どう据えるのかによって中心市街地に集積される機能がおのずと決まってくるのではないかと考えられます。

この計画の基本コンセプトでは「高齢者が安心して豊かな暮らしを過ごすことのできる街」となっています。その意味では、生活者としての視点での機能集積が重要だと考えられます。生活支援という機能を中心に置き、かつ重点的に集めたほうが、過ごしやすいと考えられます。生活支援の概念は非常に幅広く、住環境や生活環境、文化活動や社会参加、日常生活支援、生きがいや生涯学習などなど。ある意味、福祉に近いところに位置していると考えられます。

このように考えた場合、「高齢者に優しい中心市街地づくり」を基本コンセプトに捉えたほうが、はっきりと魅力ある街づくりや目玉商品化につなげることができるのではないのでしょうか。また、来街者層のターゲットを高齢者に特化した場合、整備の方向性が明確になるという利点もあります。買いたくなるもの、必要とするものなど、身近なものを品揃えすれば買い物もできます。ひとりの高齢者にはその子供、孫といった家族がいつばいつながら持っていますので、おのずと他の年齢層の来街も増えるのではないのでしょうか。

先ほど、高齢者等の生活支援は福祉に近いと前述しました。また、コンパクト・シティの概念では、中心市街地に公共施設を集中させ、快適に歩いてまわりながら色んな用事を済ませることができる環境整備が必要とされています。

この視点で今後の活性化策を考えた場合、計画案に示されている事業のほかに、福祉機

能の拠点と年金関連の拠点が必要ではないかと考えられます。具体的には、現在、長門石にある福祉部門を中心市街地に移転する。もう一つは、国の機関である久留米社会保険事務所等を中心市街地に移転することです。

社協とかの福祉機能があれば、生活支援等への身近な相談や学生のボランティア活動の支援もできます。そうすることにより、様々な年齢層がやってきます。福祉サービス事業も近くに開業することに繋がることも可能性として否定できませんし、六角堂広場との機能連携も可能と考えられます。また、社会保険事務所があることにより、様々な年齢層もやってきます。年金は生活していくうえで、大変重要な関心事でもあるわけですから。ただ、なんと言っても、社協にしろ、社会保険事務所にしろ、現在の所在地はアクセスの面からすると、大変利便性が悪いと言っても過言ではありません。

現代の車社会において、多様な来街者の視点で魅力ある中心市街地を捉えた場合、そこにある都市機能もさることながら、その地点までの交通アクセスの利便性、つまり道路の混雑解消、駐車場の確保などの利便性向上も重要なファクターと考えられます。その意味では、道路整備や立体駐車場の整備や拡充も必要と考えられます。

最後になりますが、上記の実現に向けて、可能性がある限り頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

4) 【善導寺町 個人 70代】*****

市街地空洞化については、世の中の変わり方が激しく大変でしょうが、ゆめタウンを許可しながら一番街に空家が出来たからといって、補助金を出す事が間違っていると思う。もう少し、10年20年先を見据えた計画を立ててもらわなくては困ります。

空洞化の解決策は、高齢者の自立と、アクティブシニア層を増やす事で、市街地に各種のシニア向けのサークル教室初め、ボランティア教室をすることで（例えば、買物のため子供を1時間～2時間預かる）シニア達も地域も元気になると思う。

しかし今、大橋地区の高齢者は店がなくなり、バスやタクシーで善導寺に買物に来ております。コンパクトシティもわかりますが市街地の高齢者は郊外地の高齢者に比べて恵まれています。

郊外地の高齢者の救済の方が急務と思いますが、当局の考えをお聞かせ下さい。

5) 【荒木町 個人 70代】*****

<始めに>

少子高齢化、人口減少という避けることの出来ない傾向においては目先の対策や総花的

な施策によって市街地の活性化は望めない。

長期的な視野によって根本的に街を作り変えるという強い姿勢で取り組むことが必要と思われる。

<第6章 街なか住居を促進する事業>

狭義の中心市街地を活性化するためには、居住者を増やすことと来訪者を増やすことが必要である。

①中心地の居住者を増やすこと

街の中心地に高齢者の生活の利便性、快適性が保障される環境を整えることが必要である。居住者が増えれば新たな需要が生まれ街が活性化する。

- ・高齢者に住みよい街づくりを行う、というコンセプトを明確に宣言した都市計画を発表し、久留米市の基本施策の一つとする。
- ・高齢者向けの機能を整えた住居（集合住宅）を町の中心地に建設する。
- ・住宅は必要な機能、周辺的环境整備に重点を絞り、出来るだけ安くする。
- ・生活必需品を購入する商店街（ご用聞きシステムの整備）、文化施設、趣味の集まりが出来る集会場、介護施設、診療所、などを配置して高齢者たちが便利で安心して暮らせる生活環境を保障する。
- ・文化活動、趣味、健康促進、などを積極的に支援し、まちづくりに参加する体制を整える。
- ・建設費は民間資金を活用し、市民、民間のアイデアや協力を求める。

②市外から人を呼び込む施策をすすめること。

空き店舗にいくら補助をしても買い物客は集まらず商店街は活性化しない。人が集まる魅力を備えるためには、人を呼び込む文化施設、娯楽施設、カルチャーセンター、資料館、などを集中すること。

③駐車場の整備

地下駐車場は分かりにくく利用しづらい。人が集まらない原因の一つである。

地権者も協力して気軽に駐車できる場所を市として準備すること。

<第8章公共交通の利用促進>

公共交通の利便性からみると久留米市は西鉄、JRともに中心地から離れているため不便である。当面は西鉄久留米、JR市役所を結ぶ安価な循環バスを運行し、回数を増やす、などバスの利便性を高める対策が必要と思われるが、活性化のためには根本的な対策を急ぐ必要がある。

<第11章 その他中心市街地の活性化のために必要なこと>

久留米市が活性化するためには、市民が故郷として誇りをもつこと、久留米市のよいところを全国に発信することである。

久留米市は豊かな自然と文化、歴史的遺産、教育環境、医療施設、優秀な人材に恵まれ

ているが市民の認識が薄い、もっと自信を持ってよいと思う。

若者の流出を防ぎ、他所から人がやってくるようにするためには、久留米市が人と自然を大切にすると、という施策を日頃から行うことが必要である。例えば

①少子化対策の充実として

妊産婦検診の支援、産科・小児科病院の充実、就学前児童の医療支援、
保育園の充実、育児休暇への企業の協力、など

②食育の推進として

生ゴミの液肥化による有機農業の育成（日田市、大木町では実施している）
学校給食における地産地消の徹底
道の駅(川の駅)で販売する、など

③豊かな自然を大切に楽しむ

筑後川をもっと市民が楽しみ、大切にする（カヌー下り、サイクリング）
耳納山麓の散策、ハイキング
空耕作地を利用した家庭菜園（福岡など市外の方にも貸し出す）、など

④スポーツの充実

競輪場を総合スポーツ公園とし、サッカー、ラグビーなどを奨励する。
筑後川を活用してボート競技、カヌー競技（カヌー艇庫の活用）などを行う。

⑤観光、国際協力に力を注ぐ

街の案内板に韓国語、中国語を積極的に加える。
子供たちの海外研修を積極的に支援する、など

これ等を実現するために、市民、企業に働きかけて協力を求めるとともに、議員、行政の幹部、職員も市民の立場で積極的に加わる必要があると思う。

これらの財源としては、行政改革による経費削減、日本一の高額医療費の削減、未収納市民税の徴収徹底、などによって捻出し出来るところから実施する。

6) 【山本町 個人 40代】*****

「六角堂広場に七木地蔵尊の分院をつくり、何かしらの御利益がある所と生まれ変わり、高齢者が定期的集うシンボルスペースにしよう」

人は誰もが平等に老いてゆきます。老いたからといって食べる欲求やオシャレをしたい気持ちや街に出たい気持ちが無くなる訳ではありません。その年々の希望に応じてくれる街が存在して欲しいと願っているはずで。赤ちゃんから50代位までの品物はだいたい揃っている所が多いです。しかし、60才以降の男性、女性が髪をキレイにカットしたり、

セットしたりし易い美容室や昭和の香りがする甘味所や程よくおシャレな日常着やアクセサリーを一堂に集めた所はまだどこにも無いと思います。

元々、六角堂が賑わい活気にあふれていた時代を知る方々をターゲットにして、今一度六角堂を懐かしく思い出してもらい、かつての賑わいを体験したくなる様なスポットにしてみたらどうでしょうか。

まず、高齢者の関心事は健康で長生き。その為に長門石の七木さんの分院を配置させて頂いて、4の付く日に市を出し、六角堂に御利益を求めて人々が集まる日を多くする。人が集められれば、美味しく身体にいい昼食や昭和のお手軽おやつのお店が並び、日用品や服も全て高齢者仕様にしてしまい、美容室やマッサージ、将棋や囲碁のサロン、昭和の名曲だけのカラオケ屋さんや高齢者向けの携帯ショップやムーンスター等の歩きやすい靴ばかり集めた靴屋さんなど、全てを60才以上の方々向けの街づくりにしてみてもどうでしょうか。

特に 月一金曜日の3時から4時の1時間は地元ラジオ局のドリームFMが演歌や昭和の名曲ばかり流す番組「演歌パラダイス」を放送しているので、3時のおやつ時間はあんみつや六ツ門まんじゅうやコロケ等の出店がでたりする「ホッ」となごむスポットになっていけるのではないのでしょうか？

思いきって、高齢者仕様の街にして、歩いて笑って、決して寝つかない街をキャッチフレーズに皆でアイデアを出し合っていたらいいのではないのでしょうか？

私は若い世代が都会へ目がいくのは仕方がないと思うのです。その代わり、誰もが永遠に若い訳ではありません。誰も、一定の年齢が来たら、駄菓子屋の様な路地裏の様な、人にも身体にも優しい雰囲気のある所が恋しくなると思うのです。そんな時に六角堂が一番にぎわっていた時代を知っている世代の皆さんにスポットを当てて、安心安全な街、笑顔で語り合える街、色々な意味でスローな街が実は一番の売り、魅力となっていくのではと思ったのです。

今でも広場のそばには「とよしま」さんや「洋傘店」「釜めし」屋さん等、そのプランにぴったりのお店が天気に営業していらっしゃいますよね。ああいうお店が徐々に増えていって「味」の部分をもっと配置したりすると、必ず周辺の市町村からも「街」に行こう=六角堂、というイメージが広がると思います。(勝手な思いを書いてしまいました。)

7)【荒木町 個人 60代】*****

第1章 基本方針

(基本コンセプト)

P4 意見 1 コンセプトの「人に優しいスローライフが輝く街」を「あらゆる人にとって生きやすい街」に変更修正

理由 提起されているように「高齢者にとって安心して豊かな暮らしを過ごすこ

とのできる街はすべての人に優しい街である」ことは確かであり、若い人も含まれているが、高齢者を主人公（本文 L5）にとあることと、「人に優しいスローライフが輝く街」という表現では「高齢者にとっての街」のイメージを強く感じる。それに加えて、子ども・若い人の姿が混在している街であることが活性化をみることになる。また、「スローライフが輝く」という表現は文法的にも気になるところである。

（基本方針）

P5 意見 2 本文 L2 「人々に愛され、地域の顔…」を「あらゆる人にとって生きやすい、活用しやすい街…」に変更修正

理由 愛され、地域の顔とは分かりにくい。

意見 3 枠囲み 基本方針 4 「人々に愛され、地域の顔…」についても同上

第 3 章 目標

P7 意見 4 四つ目の●に対しての要望 「風格ある都市景観」とあるが、ジェンダーの視点が入った景観であること。

第 4 章 市街地の整備改善のための事業

P8 意見 5 枠囲み 要望として、「歩行者動線の確保」とあるが・自転車動線とも併せての対策を。

理由 両者の安全確保のため。

P9 意見 6 枠囲み 高層の集合住宅の建設には設計の段階からチェックの徹底を図ること。

理由 安全性の確保が第一義。

第 5 章 都市福利施設を整備する事業

P10 意見 7 枠囲み 保健所設置に関しての要望 駐車場の完備と利用の際は無料。

理由 だれもが行きやすくするため、福祉的配慮を。

第 6 章 街なか居住を促進する事業

P12 意見 8 枠囲み 公共が行う事業公営住宅の建替えの際は、様々なタイプのなかに高齢者・障害者向けのバリアフリー化した住宅を入れることを、福岡県住宅供給公社へ働きかけてほしい。

理由 ファミリー、単身という形態上の問題だけでなく、機能上の問題を解決するために。

意見 9 枠囲み 住宅建設（P9 意見 6）と同じ。

中心市街地の再生・活性化へ向けてのキーワード

コンパクト・シティ compact city

わが国の多くの地方都市では、郊外の開発と都心空洞化の進行により、必要以上に拡大した低密度の市街地が形成されています。無秩序な都市の拡大は、中心市街地の衰退や社会資本整備の効率低下など、さまざまな問題を引き起こしています。

本格的な高齢化社会が到来しようとしているなか、地方が活力を保ち続けるためには、街なかに入を呼び戻して持続可能な都市を構築し、特徴ある個性的な都市や地域が相互連携して、地域づくりを行っていくことが重要です。こういった現在の都市問題を解決するためには、行き過ぎた土地利用の拡散を抑制し、都心部に人が住めるような環境整備やまちづくりを目指す望ましい都市像として提案されているのが『コンパクト・シティ』です。

コンパクト・シティとは、徒歩による移動性を重視し、様々な機能が比較的小さなエリアに高密度に詰まっている都市形態のこと。コンパクト・シティをかたちづくる要素としては、徒歩による移動性の確保、職住近接・建物の混合利用・複合土地利用といった様々な都市機能の混合化、建物の中高層化による都市の高密化、はっきりとした都市の境界や独自性を有すること等が挙げられる。

コンパクト・シティを目指した取り組み例としては、コレクティブ住宅やコーポラティブ住宅等の街なか居住や、再開発事業・区画整理事業と連動した公共施設等生活拠点整備、都心循環バスやタウンモビリティ、路面電車(LRT)、TDM 施策の導入等の都市交通施策、都市と農村の交流や共生を含む土地利用施策、都市観光や街の財産を活用した地域の活性化、都市マスタープランの策定におけるコンパクト・シティビジョンの展開などがあげられる。コンパクト・シティの実現に向けて移動そのものの需要抑制や自動車依存からの脱却、土地利用の効率化等を図ることにより、環境負荷の低い都市の実現が期待される。

市街地の無秩序な拡大を抑えることによって…
近郊の緑地や農地、自然環境を守ることができる。

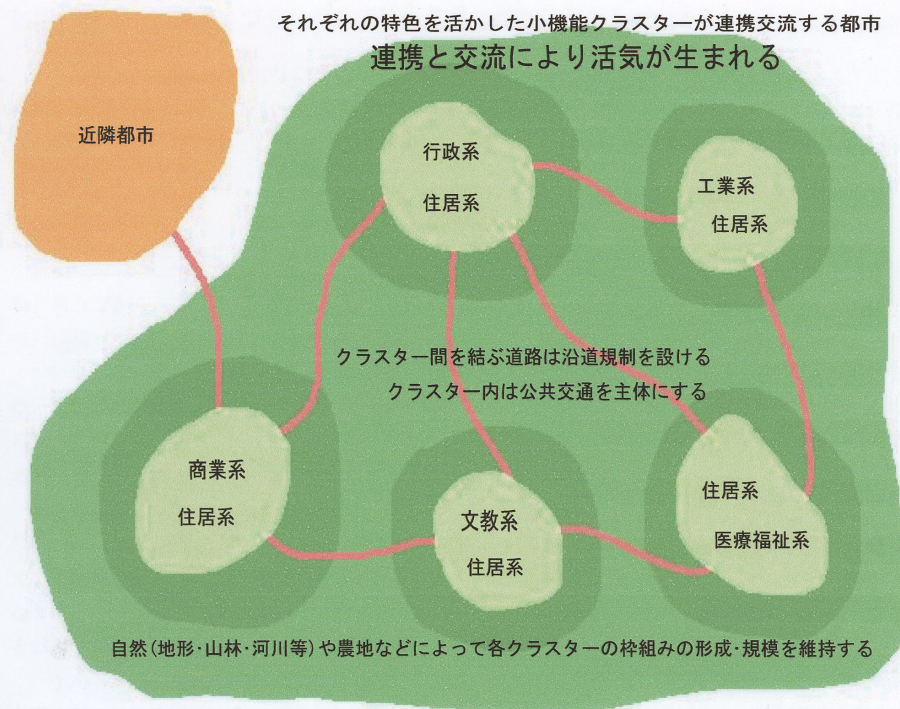
都心居住を進めることにより…
職場と自宅が近くなり(職住近接)、
女性の就業機会の高まり(地域・国民経済上も不可避)にも対応できる。

多様な機能が混じり合う町で…
高齢者などのクルマを利用しない人々が歩いて商店街や医療などの公共施設を利用しやすくなる。
子どもたちは、学校以外の社会活動や地域文化にふれる活動機会に恵まれる。
自動車交通を減らし、エネルギー消費や大気汚染を減らすことができる。

都市の中心部にさまざまな機能を集めることによって…
相乗的に経済交流活動が活発になり、
中心市街地・商店街の活性化が図れる。

地域資源を活用して、個性ある魅力的な”まちづくり”、豊かな”くらしづくり”へ…

クラスター型のコンパクト・シティの形成



クラスター：ぶどうの房。かたまり。

中小規模の都市が広く分布した人口密度が比較的低い地域構造においては、クラスター型のコンパクト・シティの形成によって、個々の都市の魅力を生み出し、なおかつ、個々の都市で不足した魅力を補うため、周辺との地域連携を強化していくことが重要です。

全ての都市的機能を1都市に集中させなくても特徴をもった小機能クラスターが相互に補完し合うことによって、全体として大都市に匹敵する都市的サービスを楽しむことが可能です。また、クラスター相互を幹線交通網で結ぶことにより、連携、交流が生まれ、小さな都市でも躍動感ある活気が生まれます。

小機能クラスターは、都市部を形成し、一つ一つがそれぞれ周辺部の中山間地域等を含む農山漁村等と一体となり一つの生活圏を形成します。一つの小機能クラスターは、生活圏の拠点として必要な基礎的医療福祉・文教・行政・商業・工業等のサービスや身近な就業機会を提供するとともに広域的な都市的サービスの一部を分担します。さらに地域の個性を生かした都市的魅力を生み出すことが必要であり、職住近接型のコンパクトな都市を目指します。

一方、周辺の農山漁村部においては、都市部への追随ではなく、自然環境の保全回復をも含む農山漁村環境を積極的に創造し、これを活用した独創的な魅力ある地域づくりが求められます。

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

久留米地域らしい都市づくり像を明確に表明したコンセプトを…

中心市街地の再生、活性化の必要性についての社会的な時代背景、久留米市における現状とこれまでの取り組みの経緯を踏まえて、今後の都市づくりとしてコンパクトシティの考え方で取り組む基本方針、計画推進にあたっての戦略的基本コンセプトは次のように設定されています。

人に優しいスローライフが輝く街

しかしながら、中心市街地の再生、活性化を進める上で、久留米市の都市づくり像を地域住民が共鳴、共有できる、さらには、他地域へもその意志を明確に示し、「私も行ってみたい、住んでみたい」と思わせる、戦略策定上も重要な役割を担う「コンセプト」が必要です。

「スローライフ」は、大量生産、大量消費、使い捨てによる環境問題に代表される生活環境の悪化を招いた20世紀の価値観への疑問から、自然からもたらされる恩恵に気づきはじめた多くの人々が求めるライフスタイルです。自然との共生、消費によって得られる生活の利便性だけではなく、自らも生産活動に参加することによる喜び、楽しさ、面白さへの体験欲求の高まりです。

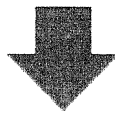
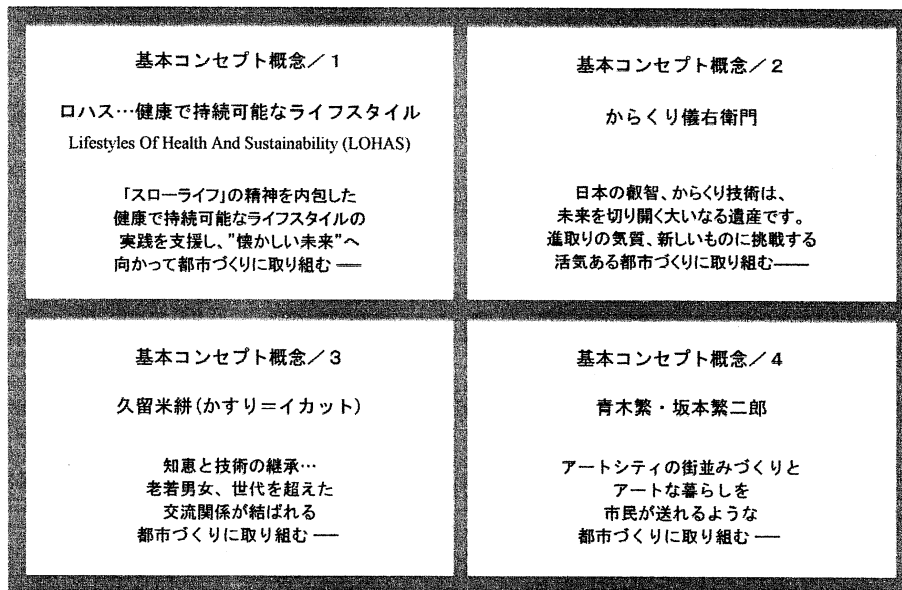
例えば、園芸(ガーデニング・畑仕事)、男の料理、陶芸、地域の祭やイベントに参加する手づくり作品(ほとんど忘れ去られていた裁縫の知恵と技術を活かしたバッグや洋品など)のバザールといったコミュニティ活動、地産地消や地域の生活文化にふれる体験・学習型の観光・交流ニーズ、マラソン大会などスポーツイベントに観衆としてではなく自らもランナーとして参加するといった行動にみることが出来ます。

「つくる面白さ」、「知る・学ぶ・上達する喜び」、「仲間づくりの楽しさ」、そして「生きがいつくり」につながっていきます。これらの行為からは、代金を支払ってサービスを一方的に享受する「消費型」では得られなかった「参加型」・「生産型」のライフスタイルへの欲求変化が窺えます。

しかし、この欲求レベルは、「スローライフ」を内に含めたもっと大きい概念です。都市づくりの概念としては「スローライフ」では地域住民のすべての共鳴を得ることは難しいのではないかと思います。

また、国主導で、しかも行政に任せれば生活できたような時代は終わりを告げようとしています。多くの人々が、地域住民が自ら立ち上がり、地方主導の気運を高めていく必要性を認識しているのでしょうか。団塊の世代の大量退職が始まります。彼らがまちづくりの担い手になることも期待されています。国・自治体は、こうした「担い手」活用に向け、支援策を拡充し、積極的に住民をまちづくりに参加させる仕組み、大学や企業、NPOとパートナーシップを結ぶ方策をとる必要があります。

「スローライフ」の精神を基本としながらも、それぞれが自分に合った価値観で、また同じ価値観を共有できる仲間たち(コミュニティ)と交流し、「消費型」だけではない「参加型」・「生産型」の活動を喜びを持って取り組める都市づくり計画を目指し構築するコンセプトと共に、久留米という地域が培ってきた歴史と、その歴史の積み重ねによって育まれてきた生きるための生活文化を踏まえた「久留米らしさ」を併せ持ったコンセプトの設定が求められます。



新久留米市中心市街地活性化基本計画を推進する
戦略基本コンセプト案

ロハス育ちの街・久留米

知恵と技術の継承と交流 ”懐かしい未来”都市

Lifestyles Of Health And Sustainability の頭文字(LOHAS)をつないだ造語で「健康で持続可能なライフスタイル」という意味の言葉です。昔ながらの知恵や技術を大切に生活すること。そして新しいものの価値をしっかりと見極めていく。そんな生活の繰り返しが「健康で持続可能なライフスタイル」であり、懐かしい未来へ向かっていくという考え方です。

現在、LOHAS 的なライフスタイルの人がどんどん増えています。これからの現代人にとって普遍的なライフスタイルになっていく概念です。

健康と環境に配慮した「ロハスな生活」を送るためのオーガニック食品や自然素材を使ったファッションなどがアメリカでは約30兆円の市場規模になっているとも言われ、日本でも広がりを見せています。

<p>基本コンセプト概念／1</p> <p>ロハス…健康で持続可能なライフスタイル Lifestyles Of Health And Sustainability (LOHAS)</p> <p>「スローライフ」の精神を内包した健康で持続可能なライフスタイルの実践を支援し、「懐かしい未来」へ向かって都市づくりに取り組む——</p>	<p>基本コンセプト概念／2</p> <p>からくり儀右衛門</p> <p>日本の叡智、からくり技術は、未来を切り開く大いなる遺産です。進取りの気質、新しいものに挑戦する活気ある都市づくりに取り組む——</p>
<p>基本コンセプト概念／3</p> <p>久留米餅(かすり=イカット)</p> <p>知恵と技術の継承… 老若男女、世代を超えた 交流関係が結ばれる 都市づくりに取り組む——</p>	<p>基本コンセプト概念／4</p> <p>青木繁・坂本繁二郎</p> <p>アートシティの街並みづくりと アートな暮らしを 市民が送れるような 都市づくりに取り組む——</p>



新久留米市中心市街地活性化基本計画を推進する
戦略基本コンセプト案

ロハス・アート・シティ・クルメ

知恵と技術の継承と交流 ”懐かしい未来”都市

Lifestyles Of Health And Sustainability の頭文字(LOHAS)をつないだ造語で「健康で持続可能なライフスタイル」という意味の言葉です。昔ながらの知恵や技術を大切に生活すること。そして新しいものの価値をしっかりと見極めていく。そんな生活の繰り返しが「健康で持続可能なライフスタイル」であり、懐かしい未来へ向かっていくという考え方です。

現在、LOHAS 的なライフスタイルの人がどんどん増えています。これからの現代人にとって普遍的なライフスタイルになっていく概念です。

健康と環境に配慮した「ロハスな生活」を送るためのオーガニック食品や自然素材を使ったファッションなどがアメリカでは約30兆円の市場規模になっているとも言われ、日本でも広がりを見せています。

新久留米市中心市街地活性化基本計画を推進する
戦略的基本コンセプトの提案

基本コンセプト概念／1

ロハス…健康で持続可能なライフスタイル
Lifestyles Of Health And Sustainability…(LOHAS)

「スローライフ」の精神を内包した健康で持続可能なライフスタイルの
実践を支援し、「懐かしい未来」へ向かって都市づくりに取り組む――

Lifestyles Of Health And Sustainability の頭文字(LOHAS)をつないだ造語で「健康で持続可能なライフスタイル」という意味の言葉です。アメリカの社会学者ポール・レイと心理学者シェリー・アンダーソンにより提唱され、2002年に日本へ紹介されました。

例えば、昔ながらの知恵や技術を大切に生活すること。そして新しいものの価値をしっかりと見極めていく。そんな生活の繰り返し「健康で持続可能なライフスタイル」であり、懐かしい未来へ向かっていくという考え方です。

大量生産、大量消費で便利さ豊かさを手に入れる一方、深刻な環境汚染、地球温暖化が起きています。これは人類社会の大きな課題となっています。そんな中、健康や環境を重視したライフスタイルを持つ新しい生活者層も生まれてきました。

現在、LOHAS 的なライフスタイルの人がどんどん増えています。これからの現代人にとって普遍的なライフスタイルになっていく概念です。

基本コンセプト概念／2

からくり儀右衛門

日本の叡智、からくり技術は、未来を切り開く大いなる遺産です。
進取りの気質、新しいものに挑戦する活気ある都市づくりに取り組む――

日本の近代技術の発展に大きく貢献した久留米が生んだ偉大な発明家「田中久重」。彼は、少年時代からからくり人形や仕掛けにその才能を発揮し「からくり儀右衛門」と呼ばれその名を轟かせました。

からくり儀右衛門は、江戸時代後期の寛政11年(1799年)、今の久留米市通町で鼈甲細工をつくる家の長男として生まれました。幼いころから父弥右衛門の仕事場に座り込んで、その手元をじっと見つめ、亀の甲が櫛やめがねの縁に変わっていく様子をおもしろそうに見ている子どもでした。

その生涯に、「万年自鳴鐘(時計)」、「無尽灯(照明器)」など数多くの品を発明し、東洋のエジソンとも称されます。

江戸時代のからくり技術は、中国及び韓半島経由の東洋系の技術とヨーロッパよりもたらされた西洋系の技術との融合のうえに日本独自の技術として発展しました。現在の日本の技術は、からくり技術の伝統を受け継ぎつつ、海外からの新技術にも学び、遂には世界の最高水準の工業技術を保持する国となりました。

21世紀…、日本のからくり技術は、新たな時代の課題である環境技術や福祉関連技術に大いに貢献する可能性があります。資源やエネルギー、高齢化社会、障害者支援といった問題にからくり技術は十分に対応できる技術なのです。

古来より練り鍛え上げた日本の叡智、からくり技術は、未来を切り開く子どもたち、青少年に科学への興味や創造性を高め、未来社会の科学、技術の担い手を育成する大いなる遺産です。

基本コンセプト概念／3

久留米絣(かすり=イカット)

知恵と技術の継承…老若男女、世代を超えた 交流関係が結ばれる都市づくりに取り組む ―

からくり儀右衛門が住んでいた近所に、井上傳という少女がいました。1800年(江戸時代後期)頃、この井上傳によって久留米絣が発明されました。

ある日、伝は衣服が何度か水をくぐって色あせたところに、白い斑点がついているのに気づきました。粗けずりな美しさを持ったその斑点に魅せられた伝は、その衣服を解きはなし、糸の白黒にならって白糸でくくりました。そして、これを藍汁に染めて乾かし、そのくくり糸をといて機はたにのせてみると、白い斑点が数百点布面に現われ、不思議な魅力を持った新しい織物が仕上がったのです。この織物は、所々かすれたように見えることから「加寿利」と名づけられました。これが、久留米絣のはじまりです。

からくり儀右衛門が15歳のとき、もっと新しい模様がつくれないかという伝の悩みを聞いて、それまでの十字模様やあられ模様とは違った花や鳥や人の形をした絵模様の美しい絣を織ることができる機械をつくり出し、織り方や下絵の描き方まで教えたので、久留米絣の評判がいつそう高くなりました。

インドネシアには「染め物」として有名なバティックに対し、「織物」としては絣織のイカットがあります。「イカット(ikat)」とは「結ぶ、束」という意味です。

《知恵と技術の継承と交流事例》

2006年10月28日、29日の2日間、東京・表参道ヒルズ多目的スペース「オー」で気軽に体験できる、ニットアウトが開催されました。ニットショーやトークショー、作品の展示なども行い、お茶を飲みながらあみものを楽しむといった、手あみの新しいスタイルをアピールしました。

「ニットアウト」は、もともとアメリカでスタートした手あみイベント。青空の下、手あみを楽しんだり、作品を発表したり、たくさんの人たちがストリートに集まります。

誰でも参加できるあみもののオープンワークショップや作品展示、エスプレッソのテイスティングコーナーなど内容もりだくさん。参加者には素敵なプレゼントの抽選もあり、大にぎわい。開始早々から会場は手編みを楽しむ方でいっぱいになりました。「ニットアウト」に加えて、「ニットカフェ」も同時開

催されました。原宿、表参道周辺のカフェがニットカフェに変身。人気ニットクリエイターの作品やワークショップが開かれ、どちらのイベントも、秋の心地良い季節の中で、お茶を片手にニットイングタイムを老若男女たくさんの人が一緒にあみものをして時間を過ごしました。

その後、常設のニットカフェがオープンし、人気を博しているようです。

基本コンセプト概念／4

青木繁・坂本繁二郎

アートシティの街並みづくりとアートな暮らしを 市民が送れるような都市づくりに取り組む ―

「文明開化」をかかげた明治の日本は、急激な西洋化、近代化を進めました。世界のさまざまな異文化が流れ込んできた“豊かな混沌”の中で創造の源泉を見出し、活力として若い想像力を開花させた最初の画家が、青木繁であったと言えるのではないのでしょうか。

青木繁は、1882年(明治15年)、久留米市に生まれる。同じ年、同じ久留米に生まれた坂本繁二郎とともに日本の洋画壇を代表する洋画家です。文学青年で浪漫派だった青木に対し、坂本には学者肌のところがあり、優れた絵画論をいくつも著しています。

青木繁は、大いなる志を持って芸術の世界に生き、重要文化財「海の幸」「わだつみのいろこの宮」などの鮮烈な作品を残して、28歳の若さで夭折しました。

坂本と青木は無二の親友であるとともに、終生その存在を意識せざるをえないライバルであったようです。坂本は代表作「水より上がる馬」をはじめとして馬の絵をよくしたが、第二次大戦後の柿、栗などの静物や能面をモチーフにした作品、最晩年の月を題材にした作品もそれぞれ独自の境地をひらいている。

坂本繁二郎は、梅原龍三郎、安井曾太郎と並ぶ洋画会の巨匠と見なされ、1956年(昭和31年)文化勲章を受章。1969年(昭和44年)87歳で没した。

世界的にも名を残す芸術家を生み、育んだ久留米の地らしい、アートシティの街並みづくりとアートな暮らしを市民が送れるような都市づくりを目指す。

2. 中心市街活性化へのもうひとつの視点

中心市街地＋観光振興による地域の活性化

地域から「活気」が失われていく理由は、「中心市街地の衰退」、「産業の衰退」が考えられます。中心市街地の課題は「購買力の低下」です。産業の衰退では、観光業の衰退、基幹産業の衰退を懸念する声が多いようです。このほか、「人口減少」もその要因として高く、産業の衰退から、雇用環境が低迷して若者が流出する地方の厳しい現状が窺われます。

地域の活力を支えるには、観光や農業など「産業の活性化」は欠かせない要件です。人口増加も重要な要素です。

「団塊の世代をターゲットにした体験ツアーを実施したところ12名の参加者中5名が定住する事となった」(石川県)、「都市農村交流施設、イベントなどにより観光交流人口が増加している。郷土料理をスローフードとして位置づけた町営レストランや地域主体の運営による、アイスクリーム工房、とうふ亭など、ふるさとの食と自然を体験できる施設をグリーンツーリズムの中核に位置づけている」(兵庫県多可町)、「市街地再開発事業(ミュージックタウン整備事業)が着工し、周辺地域も音楽によるまちづくりに対する期待感が溢れ、少しずつ賑わいがでている」(沖縄市)との具体的な成果を上げている自治体もあります。いずれも、1カ所の観光スポットだけを売りにする従来の発想とは違い、周辺資源をより多くリンクさせています。

「かつての大規模イベントによる交流人口の増から、現在は主に村内の自然景観を生かしたイベントや、ホテルや博物館、産直センターなどの施設を活用した地域活性化を進めている」(秋田県大潟村)や「醤油工場と進水式を組み合わせたツアーやJRとふぐ料理店がタイアップしての『ふぐ列車』など、地場産業を利用した新しい観光に取り組み、結果として観光客が増加している」(大分県臼杵市)などの事例もあります。

地域を活性化させるために力を入れている計画の多くは、産業振興、協働・市民参加などまちづくり、中心市街地の活性化です。

まちづくり3法の改正で、今後、中心市街地活性化法にもとづき、中心市街地の活性化に重点が置かれることになりそうですが、これまで別々に進めてきた産業の活性化や、観光振興をいかにリンクさせていくかが政策上もポイントになってきます。

中心市街地＋観光活性化のモデル…町家整備と再開発を同時進行

再開発と歴史的な風情ある景観の保全—。一見、相反するプロジェクトを同時に実現させ中心市街地の活性化を図ろうとする試みが三重県伊賀市(平成16年1月に上野市、伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村、青山町の6市町村が合併)で取り組まれています。

老朽化が進む駅前一帯を再開発で整備する一方で、城下町に残る空き町家をレストランや工芸品店、住宅などに改修する。さらに、テナントミックスと呼ばれる、店舗を計画的に配置する手法を導入することで再開発ビルから街中へと、人を回遊させる。中心市街地と観光活性化を結びつける新たなモデルとも言える伊賀市の取り組みです。

団塊世代を担い手に

地域を再生する上で、不足している資源は何か——。それは、活性化の担い手、マーケティング力を

持った人といった人的資源です。

地域活性化の先進的な事例には、必ずといっていいほどカリスマ的な人材がいる。かつて、住民参加型まちづくりで注目を集めた北海道ニセコ町は、現衆議院議員の逢坂誠二前町長がそれだった。同じ北海道では帯広市のさびれた駐車場を年商7億円の屋台村に変えた中心人物、坂本和明氏。いまますコミ各社で取り上げられる旭山動物園の小菅正夫氏や坂東元氏。風力発電の建設で市民からわずか2カ月で4億円もの出資を集めた鈴木亨氏。高齢化が著しい徳島県上勝町でおばあちゃんの葉っぱ採取をビジネスにした横石知二氏。年商30億円の柚子産業を生み出した高知県馬路村の東谷望史氏。滋賀県長浜市をガラスの街に蘇らせた笹原司朗氏…。

しかし、国や地方の財政が悪化し、財政破綻するような自治体まで出始めている状況で、こうした情熱的、天才的なまちづくりリーダーの誕生を待つ余裕はない。そもそも彼ら自身、決して自然発生したわけではない。1つ1つの身近な課題に取り組んだ結果、有名になりえた人物だ。

地域活性化で特に力をいれている計画の多くは産業振興で、その中身は、観光や基幹産業の活性化です。しかし、これらは、従来型の単なる自然観察スポットや、一時的なイベント、あるいは単に美味しい農産物だけでは活性化し得ません。やはり、知恵を持った人材＝担い手の創意工夫による、地域資源を有機的に結びつけるような戦略が求められています。

「担い手」の登場、育成を促すにはどうすればよいのか、重要かつ難しい課題です。

そのヒントに、例えば群馬県太田市は「市税の1%相当を財源に地域が考え行動し汗を流す行政と住民のマッチング事業を行っている」。

長野県栄村では「農業改善組合、山菜生産組合、そば生産組合の設立や山菜の温室栽培、農産物直売所の開設などに女性も実行部隊として参加している」。

広島県安芸高田市「市内を32のブロックに分け、それぞれの地域振興自治組織と住民、行政との協働によるまちづくりを推進している」——などがあります。

参考資料—新建新聞社「まちづくり新聞」

3. 計画推進による将来予測(数値目標の設定)手法について

定量調査と定性調査のミックス…“数量化できない意識”を把握することが重要

実施する事業が全体としてどのように寄与するかについて具体的かつ合理的に説明されているかが申請マニュアルには求められています。

そのためには、国・自治体が過去に行った統計データ、当計画で実施しようとしている事業に対する定量調査を行って得たデータを基礎データとして分析する必要がありますが、これだけでは不十分です。多い少ないの数量による判断だけでは価値観が多様になってきている生活者の動きは読みきれなくなっています。1人の人の中でも、ある場合は節約型であっても、別の場合には驚くほどの大胆な行動に出るといった人が増えています。一見矛盾した行為ですが、今や、十人十色ではなく一人十色の時代といってもいいほどです。

定量調査の数量データでは読みきれない、人々の“数量化できない意識”をより正確に把握することが重要です。

“数量化できない意識”を把握する定性調査の手法を駆使する必要があります。

定性調査手法の代表的なものにグループインタビューがあります。年代・性別・興味の対象等の属性が共通する5人以上8人までのグループを集めてインタビュアーが参加者から意見や思いを引き出し、参加者同士の話し合いの中から“隠されていた意識”を見つけ出す手法です。同じ調査課題で、より正確に把握するために、年代・性別・興味の対象の属性が、グループごとに異なる複数グループ(3～5グループ)に対して行い、総合的に分析・判断する手法です。

さらに、グループインタビュー参加者から特定の人を数人選定し、その人の平日と休日の24時間の行動を時間割で文章と写真等で記録することで精度を高めるといった手法があります。(日記調査)

これに調査課題に対する意見者としてふさわしいオピニオンリーダー的な人に個別にヒアリングするといった調査を加えればなお効果的です。(ピンポイント・ヒアリング)

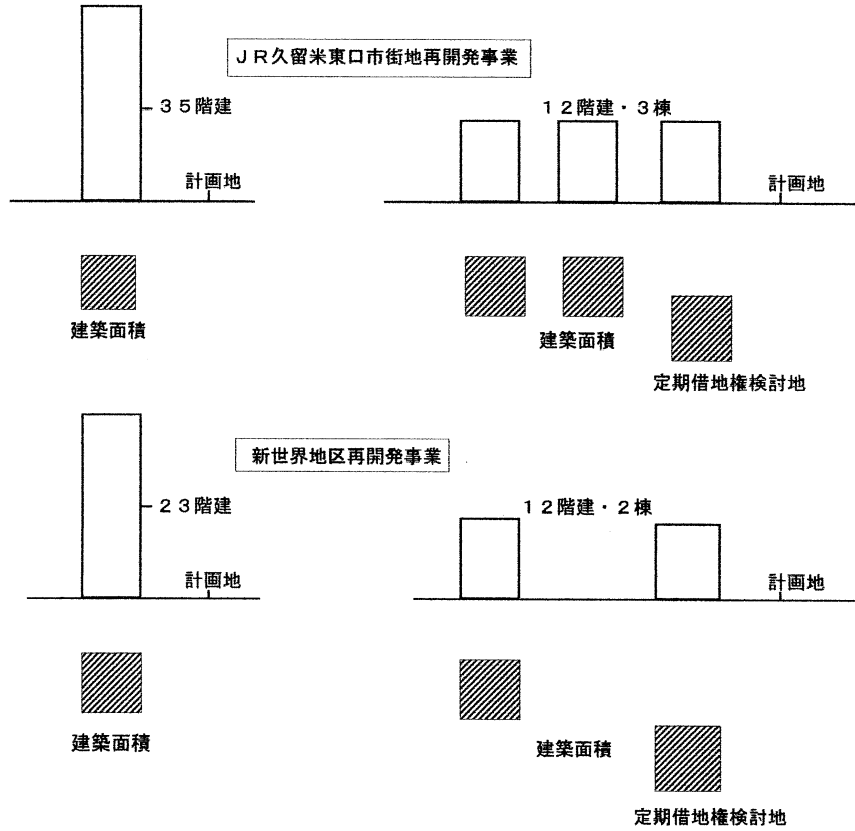
定量調査にも設問内容の設定、調査対象の年代・性別・居住地域・行動範囲などの設定といった専門知識が必要ですが、定性調査のグループのインタビュアーには参加者の隠れた意識を引き出す、参加者同士の話し合いを出来る限り本音でできるような場づくりといった高度な技術が要求されますから、より専門性が高い手法になります。合併間もない新久留米市においては、旧市町の住民別(居住地別)のグループ設定も考えられます。また、久留米市周辺の市町の住民も加えるかどうか検討したい。

定量調査データと定性調査データを重ね合わせて分析することによって、将来予測の精度を高めるだけでなく、計画自体の見直し、調整の資料としても活用できる貴重なデータとなります。

[超高層集合住宅について]

JR久留米駅東口市街地再開発事業…35階建て(270戸)

新世界地区再開発事業…23階建て(126戸)



集合住宅の比較検討表

要因	建物	超高層建築物	中高層建築物
都市景観		周辺殿との違和感	周辺との調和
建築工事コスト		建設工事費が高い	建設工事費通常価格
運営コスト		高度機能要求・高価	一般的機能・通常価格
維持管理費		長期修繕計画・高価	一般的構造・通常価格
賃貸条件		高コストが価格に反映	周辺価格より安価
周辺部の風害影響		調査による	一般的建築物
長期建物機能変化		人口減少化傾向に未知数	リファイン・コンバージョン対応

※詳細に又、高度な検討が必要です。

9) 【国分町 団体 60代(代表)】 * * * * *

全体をとおして

意見 1

なぜ(案)がダイジェスト版なのか。パブリックコメント制度ができて初めての経験なので疑問を持ちました。写真が多い、すごいボリュームになるなど、もし理由があるのならやはり、それを述べてひとこと断るべきです。

意見 2

意見 1 と関りますが、(案)にせめて経過と総括は明確にすべきです。

市民としては、つい最近、活性化計画が練られ、予算をつぎ込んで事業が展開されたのであれば、再びシャッター通り化したのはなぜか、それをどう評価しているのか、経過をきちんと明らかにして、つまり、総括すべきだと思います。それがないとまた同じ轍を踏むことになるのではないかと恐れます。

意見 3

まちづくりにはどうしても男性の視点のみで計画されることが多いように思います。

特に交通・建設などがそうです。

- 《1》 この事業に関する職員の女性割合
- 《2》 この事業の受益者としての女性の割合
- 《3》 女性に対する影響は何か
- 《4》 男性に対する影響との違いは何か

などが検証されているべきです。「すべての領域にジェンダーに視点を」とはそういうことです。

そして生活者としての女性の意見を本気で引っ張り出すようにしてください。そこに子ども・若者・単身者・子育て期の人・二世帯・三世帯・四世代同居家族の人・職業別等々の女性をとおしての意見を見てください。

個別意見

第1章 基本方針

(基本コンセプト)

P4 意見 4 コンセプトの「人に優しいスローライフが輝く街」を「あらゆる人にとって生活しやすい街」に変更修正

理由 提起されているように「高齢者にとって安心して豊かな暮らしを過ごすことのできる街はすべての人に優しい街である」ことは確かであり、若い人も含

まれているが、高齢者を主人公（本文 L5）にとあることと「人に優しいスローライフが輝く街」という表現では「高齢者にとっての街」のイメージを強く感じる。それに加えて、子ども・若い人の姿が混在している街であることが活性化につながる。また、「スローライフが輝く」という表現は文法的にも気になるところである。

（基本方針）

- P4 意見 5 本文 L2「人々に愛され、」の後に「暮らしやすくする」を入れる。
理由 先ず第一に暮らしやすく住む人に愛されなければならない。でなければ地域の顔とはなりにくい。

第3章 目標

- P7 意見 6 四つ目の●に対する要望「風格ある都市景観」とあるが、これまでの経験から言って、女性の裸像を道路沿いに置くなど、ジェンダーの視点の欠如した景観にならないように注意してください。

第4章 市街地の整備改善のための事業

- P8 意見 7 枠組み 要望として、「歩行者動線の確保」とあるが、自転車動線とも併せての対策を。
理由 両者の安全性確保のため。
- P9 意見 8 枠組み 高層の集合住宅の建設には設計の段階からチェックの徹底を図ること。
理由 安全性の確保が第一義。

第5章 都市福祉施設を整備する事業

- P10 意見 9 枠組み 保健所設置に関する要望 駐車場の完備と利用料は無料。
理由 だれもが行きやすくするため、福祉的配慮を。

第6章 街なか居住を促進する事業

- P12 意見 10 枠組み 公共が行う事業 公営住宅の建替えの際は、様々なタイプのなか
に高齢者・障害者向けのバリアフリー化した住宅を入れること
を、福岡県住宅供給公社へ働きかけてほしい。
理由 ファミリー、単身という形態上の問題だけでなく、機能上の問題を解決するために。
- 意見 11 枠組み 住宅建設 (P9 意見 6) と同じ。

10) 【六ツ門町 団体 50代(代表)】*****

行政の取り組みとして、大所高所から判断すれば、大枠に成ると思われませんが、抽象的で具体性が欲しいものです。

一般市民から見れば、基本方針については、地域住民の一体感と連携を持っての街づくりが必要であり、昔ながらの居住環境を整備すると共に住民主導の街づくりを基本に取り組むべきと思われます。

また、第三章での数値目標で、久留米市の経済効果・効率も提示して頂きたい。

*観光入込客数の数値目標はありますが、具体的に観光となるスポットを示して頂きたい。例えば、季節ごとの観光スポットとルート・回遊性等。

*開業店舗数に関して、地域密着の根付いた業態店舗を考え、精査していただきたい。年平均10店舗開業で空き店舗率が下がったとしても、商店街の立場では、組合組織として販売促進活動を行える店舗が必要で組合加入が出来ない店舗や補助金対象などの短期出店では、組合の維持も難しく組合組織が衰退の道を歩む事になります。

公共が行う事業・民間が行う事業、又は、特定団体が行うものでも、上意下達的押し付けではなく、現場の声を取り入れ推進することが望ましいと思えます。

以前 2月11日に投稿いたしましたが、現在の諸問題として、当商店街地区に食育を兼ねたスローフードのレストランの事業計画があるようですが、現状のような推進のあり方では、地域住民の賛同は得られません。(株)ハイマート久留米とNPOが事業主体となっておりますが、その2団体も行政指導によって行っているとの返事でした。

第十章 その他中心市街地の活性化のために必要なこと(留意点)の①にあるように住民参加が必要不可欠であると思われまます。

現在では、商店街並びに地域住民からは反対運動が起こっております。このような状況を打開するために何をすべきか、問われる事と思います。

何事にも関して、地域住民の声を無視する事ではなく、最初に聞くべきであると思います。

1 1) 【東京都世田谷区 団体】 * * * * *

はじめに

全国的に中心市街地の衰退、空洞化という現象が深刻化しています。久留米もまたしかり。このままで良いはずがありません。故郷は、私たちの心の拠りどころです。故郷は、自らのルーツです。何かあったら戻るべき懐かしい場所です。中心街にかつての賑わいを再び…。この願いを抱くのは私たちだけではないはずです。

東京高牟礼会としても、故郷久留米のさらなる飛躍のため、行動を起こしたいと思えます。ご高配のほどよろしくお願ひします。

中心市街地にある商店街の再生については、すでに専門的な検討もかなり進んでいると思います。したがって、ここでは主に空き店舗対策と情報化社会での小売店のあり方についてふれたいと思います。

1 社会の動きと商店街のかかわり（先ずはコンセプトづくりから）

言うまでもなく、その時々社会情勢の変化で店舗経営は左右されます。特に変化の激しい今日の社会では、それに適応した店づくりのコンセプトが必要です。

コンセプトづくりの基礎になる今日の主な社会現象

- 少子化・高齢化社会
- 地球環境問題
- 教育問題
- 情報化社会

2 高齢化社会で考えられるビジネスモデル

- ① 商店街に大掛りな「まちの駅」を。食と健康をテーマにした市民の情報交換の場にする。
 - ・ 旧4町を中心にした産直品の販売がメイン。

- ・子供とシニアの食育と健康相談コーナーを設ける。
 - ・「まちの駅」では、常時全国に発信できる新商品の開発を目ざす。
 - ・新商品の開発は、商（産）・学・官協働のプロジェクトチームで。
 - ・「まちの駅」のたたずまいは、久留米地方の特色を生かしたものにする（後述）
- ②「まちの駅」を窓口にした健康体験ツアー・食育ツアーの開催。
- ・久留米における医療機関の特性を生かして、健康まちづくりを目ざす。
 - ・スタッフは医療関係者やそのOB、旅行業者などとの協働で。
 - ・だれでも参加出来るように割安料金で参加者を募集する。
 - ・参加者には近郊の里山散歩やその地方に伝わる伝統料理を味わってもらう。
 - ・またストレッチ運動などの体験のほか、当日、採血や体力の測定を行い後日、医師の所見をつけて参加者全員に郵送する。
 - ・このツアーの最終目標は食と健康を極めることによって罹病率を下げること。

3 地球環境問題で考えられるビジネスモデル

①フェアトレード（公正貿易）商品の紹介と販売

これは開発途上国の製品を公正な価額で買い、現地の人々の生活を保障すると同時に、自然栽培で完成したこれらの製品を育成することで環境保護にも貢献する。ヨーロッパでの認識度は高く、日本でも急速に伸びている。

主な産品国と商品例

- | | |
|---------------|----------------|
| ・エクアドル…チョコレート | ・フィリピン…バナナ、黒砂糖 |
| ・ペルー…衣料 | ・パレスチナ…オリーブオイル |
| ・ネパール…衣料 | ・東チモール…コーヒーなど |

②発途上国の「一村一品」の紹介と販売

ジェトロが中心となって開発している途上国の一村一品（民芸品やコーヒー、石鹸など）全国の主な空港に直売コーナーがあり話題を呼んでいる。

4 教育問題で考えられるビジネスモデル

①もう一つの学校「駄菓子屋」

ひと昔前のぬくもりのあるアナログ世界を再現、子供たちの交流の場にする。

駄菓子だけでなく、手作りの工作コーナー、地元で伝わる民話などの絵本も置き、店のおばさんやおじさんとの交流を通して社会性を学ぶ、言わば楽しい「もう一つの学校」を目ざす。また子供たちが社会奉仕などで得たポイントカードや地域通貨的なものでも駄菓子を買えるシステムを考える。

②「駄菓子屋」を現代版「駆け込み寺」に

運営が軌道に乗った段階で、子供たちのすべての悩みに応えるスタッフとスペースを設ける。

5 現在、営業中の既存店で考えられるビジネスモデル

①「一店・逸品運動」の展開

既存の各店舗が全国から探したそれぞれの一品を紹介、販売するもので、集客のための一手段になる（すでに全国の商店街のいくつかで展開中）

②姉妹（友好）都市の逸品の紹介と販売

アメリカ・モデスト市 中国・合肥市 郡山市の民芸品や食料品などの販売。

6 花いっぱい「ほとめきの街」に

①花いっぱい運動の展開

衰退気味の商店街にうるおいを与えるため、各店舗の前に四季折々の花を飾る。また年配者の休憩用として、等間隔にベンチを置く。

②店街内の屋号や看板は、久留米耕や藍胎漆器の紋様などをアレンジして製作。久留米の伝統工芸の奥の深さをアピールする。

7 情報化社会で考えられるビジネスモデル

①中心市街地問題の要因の一つはeコマース

中心市街地衰退の要因は近郊の大型SCだけでなく、年間の商品販売額などから見てインターネット販売者による電子商取引（eコマース）だと指摘する専門家もいます。すでに流通業界のネット活用もさらに広がりを見せ、情報化時代の商活動や消費行動は激変しています。

今、すぐ求められているものそれは…ネットを駆使した大掛かりな商活動です。

②「ほとめきの街」ネット放送局の開設

- ・久留米の現状と将来ビジョンを市民の目線で見つめ、全国に発信する市民手づくりの放送局。NPO法人にする。
- ・当初は経営基盤確立のためメイン番組として「ほとめきの街」ショッピングを制作する。これは先に述べた商店街の「一店・逸品」運動の中から、各店舗が開発した逸品を取り上げる。また軌道に乗るまでは、ネット通販の新たな手法として注目されている「ドロップショッピング」で品ぞろえを強化、サイトの魅力を高める。
- ・局内に商品開発のプロジェクトチームを結成、各店舗と協働で開発にあたる。
- ・局内にDVD制作チーム（外部委託）を置き、イベントや主な観光コースを取材。その都度全国に発信。後日これらをまとめてDVD化する。
- ・この世界は日進月歩です。開局後はその時々的情勢を把握しながら、郷土久留米の姿を最良のスタイルで発信します。

以上